

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



1



6



4



2



5



3

ふるさと の情景

VOLUME

9

加賀田地区

(加賀田神社、座のオコナイ)



加賀田神社の座の「オコナイ」は1月3日に開かれる行事で、加賀田燈正会の人たちによって、古くから守り伝えられてきました。燈正会は加賀田地区に住む特定の住人によって組織され、神社に残された記録から、慶安元年(1648)にはすでに存在していたことがわかっています。

当日は、はじめに版木を使ってお札を作成します。その後、袴に替え、社務所内に祀られる仏像の前で、加賀田地区で前年度に誕生した男子の名前を読み上げ、般若心経を唱えます。これが終わると地域を流れる加賀田川の西側の住人と東側の住人が向かい合っ

て着座し、「シシオイ」が始まります。この際、まず燈正会の中で最年長者が餅を木の枝で叩いてから転がし、餅を受け取った人が同じ所作を繰り返します。この神事の意味は定かではありませんが、餅を農作物を食い荒らすイノシシに見立て、その厄を払うという言い伝えがあります。近年は参加者の減少もみられますが、現在でも規律が守られ、伝統が受け継がれています。

ふるさとのひと

北井眞治さん

今は加賀田神社で行われている座の「オコナイ」ですが、もとは神社周辺にあった泉福寺の修正会という国家安泰や五穀豊穡を祈願する儀式が起源のようです。明治時代の廃仏毀釈で同寺が廃寺となったことで神社で行うことになったのでしよう。加賀田では寺と神社が親密な関係にあったことがわかります。この地域に住む者として、これからも伝統を守らねばと思っています。



1餅を転がすシシオイの儀式
2前年度に生まれた子の名前を清書
3版木でお札を作成
4柱を叩く合図でシシオイが始まる
5神事を終えた後のお雑煮
6昨年9月に修復された本殿の彩色

※加賀田神社は三日市町駅より南海バス加塩または新町橋下車徒歩5分。